

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

8月に葛飾事業所が開設し、早2ヶ月が経ちます。改めて、我々介護事業者は地域に根ざすことの大切さを、痛感せずにはられません。よいサービスを提供するためにも、より一層心を正していかなければならないと心に誓う毎日です。

北関東・東北では、先日の台風による豪雨で、河川が決壊して浸水するという大規模な災害が起きました。被害に遭われた方々の心情を思うと、胸が痛くなります。心よりお見舞い申し上げます。

その他、地震や阿蘇山噴火等もあり、本当に穏やかではありません。

あの暑かった夏も終わって急に涼しくなり、秋の長雨も続き気候も安定しない中、精神面で体調を崩される方も多いと聞きます。皆様、どうかくれぐれもご自愛いただき、乗り切っていただければ幸いです。

サンライズの物語

施設入所される方への最後の訪問、その日にかけての言葉・・・

その方は、認知症に罹患され、徘徊を続けていた方でした。自宅へ訪問しても、その方はいつもご不在、徘徊されているのです。警察に捜索願を出すこともしばしば・・・捜索して見つかри、自宅へ連れ戻されるというのを繰り返していた方でした。

さすがに、こんなことが何度も起こると、最悪の事態も想定されると懸念し、ケースワーカー等各サービス事業所で検討した結果、施設に入所されることとなったのです。

そして施設へ入所する当日の朝、最後の援助をすべくご自宅へ訪問した時の出来事です。

その方は内向的で人見知りがあり、他の人とコミュニケーションを取るのが苦手な方でした。私は、その方が施設入所されても穏やかに生活ができるようにと、施設の職員宛にお手紙を書いたのです。

その内容はこうでした。

「施設での生活に慣れるまで、時間が掛かると思いますが、〇〇さんはとても気持ちの優しい方ですので、どうか長い目で見てあげて下さるようお願い致します」と。

私は、最後の訪問時に、その手紙を玄関のドアに貼

り付けました。

そして何時ものように朝食を用意して、退出する時・・・「〇〇さん、これで帰りますね」と声を掛けると、玄関まで追いかけてきて「また明日も来てくれるよね」とおっしゃるので、私が「はい、来ますよ」と答えたと「絶対だよ」と手を握るではありませんか！

実は、施設入所することを、ご本人には伝えていませんでした。しかし、恐らく気配を察したのでしょうか。私の手を離そうとしなかったのです・・・「大丈夫、明日も絶対来るから心配ありませんよ」と伝えたと、やっと手を離してくれました。

認知機能が低下しても、人の思いは伝わるのだ・・・そう思うと、帰り道涙が止まらなくなってしまいました。

その後、その方の担当者とお会いする機会があり、生活の状況を確認したところ、「施設で数年ぶりにお風呂に入ったら風邪を引かれてしまい、入院となりベッド上の生活になってしまった」とのこと。ああ、聞かなければよかった・・・私の正直な気持ちでした。

あの時の、その方の顔を今も思い出す時があります。施設入所という選択が、ご本人にとって最善の方法だったのだろうか・・・介護職として、今でも感慨深く心に残っております。

ふくろうのつぶやき

先月号で、介護サービスに関する苦情や事故を、いかに防いでいくかについて書かせていただきました。

その矢先に、先日とある老人ホーム内で、入居者が相次いで転落死するという事件が大きく報道されました。いろいろ調べていくうちに、その施設では虐待と思われるようなケースがいくつも出てきて、グループ内の施設でもいろいろ問題が発覚しているようです。

至極当然のことですが、これは実に悲しいことであり、いかなる理由があろうが絶対にあってはならないことです。

ここで、我々介護業界に身を置く者として、お伝えしたいことがあります。

それは、この報道等をもって、介護の仕事をする人達を見限らないでほしい、ということです。

あの一件があってから、「介護の仕事をする人間は、所

詮皆そうなんじゃないの？」というような声を、よく耳にするのです。

しかし、それは違います。日本全国のほとんどの事業所は、介護という仕事に真剣に向き合い、研鑽をつみ、そして想いと誇りを持って取り組んでいます。ご利用者様、ご家族様、地域のために・・・

こういう誤解により、例えば介護職に燃え尽きてしまう方、介護に対する想いが薄れてしまう方が出てくることあり得るのです。これは大問題であり、これが続くようでは、長期にわたって社会保障制度を維持することなど、とてもできません。

どうか、誤った認識を持たずに、介護の仕事というものに理解を示していただきたいのです。

ただ、介護業界について正しく理解していただけないという点では、我々にも責任はあります。

それは、今やるべき介護の仕事を、誠実にまじめに想いを込めて取り組んでいくことで、解消できればと思います。

NEWS 今月のニュース

おしどり夫婦、福祉施設回り音楽演奏 お年寄りや障害者らと交流

川口市西青木のミュージシャン矢作和雄さん（64）は、妻の節子さんと福祉施設などを回り、懐かしい歌の演奏でお年寄りや障害者たちと交流している。ユニット名は「かずくとせっちゃん」。二人三脚のボランティアは10年になる。

幼なじみのこの二人。和雄さんは、勤め先でギタークラブに所属していたこともあるアマチュア音楽家。節子さんは歌が好きで、地域の合唱サークルに入っていたが音楽は素人だった。

「なんとなく一緒に始めた」という施設での演奏会。一方がつまづくともう片方がフォローするという感じで、息もぴったりだ。

高齢者が暮らす施設で「青い山脈」や「リンゴの唄」を演奏した時のこと。懐かしい歌にお年寄りたちも一緒に歌う。ふと気が付くと、声を出さないで口を動かしている人がいた。「ああ、この人は乗っている。声が出ないけど、心で歌っているのだ」と気付いた。

またある施設では、声を出して



歌う女性に施設の医師が驚いて言った。「この人が声を出すのを聞いたのは初めてだ」。和雄さんたちは「音楽の不思議な力」を知った。

「いつも全力投球。人を喜ばせてくれているけど、自分たちがうれしくなることがある。やっている喜びを感じるね」。和雄さんは節子さんを見てそう話した。

<埼玉新聞2015年8月14日(金)>

今月の名言

もし人の悪口を言うならば、自分に返ってくることを予期せよ

ブラウタス（ローマの作家）

人の悪口が相手に伝わると、関係が悪くなって嫌な思いをすることもかもしれない。人の悪口を言う自分を見て、自分への評価が下がるかもしれないし、自分も誰かに悪口を言われるかもしれない。悪口を言う自分に嫌悪感を抱くかもしれない。自分のためにも、人の悪口は言わない方がいいですね。

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>